

水質汚染対策のための水コアリションのイニシアティブ

水質汚染の検知と対策に向けた共通目標

2024 年のイタリア議長国下での G7 水コアリションの発足や、2025 年のカナダ議長国下での 3 カ年作業計画の採択など、近年の G7 議長国による成果を踏まえ、我々は、発生段階の汚染を防止し、水資源及び水生生態系を保全・保護するとともに、持続可能な形で管理し、回復させるという共通の決意を表明する。また、水、エネルギー、食料、生態系及び長期的な繁栄の間に存在する相互関連とコベネフィットを認識する。

こうした文脈において、我々は、プラスチックや PFAS などの化学物質による汚染を含む水質汚染が、世界中の多くの政府、公的機関及び水分野のステークホルダーにとって課題となっていることを認識する。同時に、水質汚染に伴う負担は甚大なものとなり得る。

したがって、関連する国際的な枠組みを活用しつつ、優良事例の共有の強化、科学研究、知見の構築、イノベーション、インフラ、水資源及び排水管理戦略への継続的な投資を行うことで、この課題への取組がさらに強化される。

これらの点を踏まえ、我々は水質汚染対策に取り組むとともに、より良い汚染の検知と対策に向けた事例、知見、専門性、及び革新的解決策を G7 および国際的に積極的に共有すべく G7 水コアリションを通じて取り組むことにコミットする。

イノベーションの推進と解決策の規模拡大

この点に関し、我々は、自然を活用した解決策（NbS）を含め、発生段階での汚染の削減や効率的な水利用と排水処理の推進を目指す革新的な解決策やアプローチを支援する。さらに、データの共有と管理、監視システムの相互運用性の向上、ならびに予測・早期警報・介入モデルの開発を強化する。

2025 年のトロント G7 エネルギー・環境大臣会合で採択された G7 水コアリション作業計画に沿って、我々は、水行動に関する国際アジェンダにとって重要な本年、関連する国際的な

フォーラムやプロセスにおいて、水質汚染物質の影響及び革新的な対応策の可能性に対する認識を高めるために協働する。

進捗を加速させ、国際的な動員を促進するため、2026年にG7及びG20議長国により「イノベーション・デー」が開催され、資源効率、排水管理、水の再利用、水質汚染物質対策などを通じて、水の安全保障の改善に寄与し得る有望なアプローチや技術が紹介される。本イベントでは、政府、民間セクターの関係者、研究機関、ならびにその他の関連パートナーやステークホルダーが一堂に会する。

